

“宮前区らしさ”と“地域特性”を活かしたコミュニティづくり
～宮前区を「住む」から「暮らす」まちへ～

平成 17 年「川崎市自治基本条例」が施行され、第 22 条「区民会議」の規定により、平成 18 年度から各区に区民会議が創設されました。区民の参加と協働による区の課題解決のため調査審議し、解決策を提案することが区民会議の役割です。

宮前区の人口は既に 22 万人を超え、この規模は地方の県庁所在都市に比肩しています。区民がまとまり、自治を向上しなければなりません。区民会議はこれらの意味でも重要で、認知度も高め、提案を実現させることが肝要です。

昭和 40 年代以降に新しく開発された宮前区では、都市内における地域コミュニティの活性化が課題となっており、区民会議では第 2 期に引き続いて第 3 期でも中心テーマとなりました。そして、“宮前区らしさ”と“地域特性”を活かしたコミュニティづくりの展開として、①多摩丘陵に位置し坂道が多い宮前区の地形と、②新住民が多い近郊住宅地という 2 つの地域特性に着目しました。

坂道はこれまで宮前区の弱点でしたが、逆の発想でこの坂道を活用し、まちの魅力や健康増進などの活力づくりと、区民の地域参加につなげたいとの考えに到りました。区内には古くからの坂や公募で愛称をつけられた坂など、名称のある坂が 38 箇所あります。目黒区や座間市など、他地域の取組を参考に、坂道周辺の資源も活用したマップ作りを中心に据え、ウォーキングコースの作成やイベントなどで区民の健康づくりや地域参加を促すことを提案しました。

また、典型的な都市近郊住宅地である宮前区では、住民の転出入が多く、「住んでいるだけ」、「寝に帰るだけ」の、いわゆる「川崎都民」の比率が高いといわれています。これらの人々にまずは地域に興味を持ってもらい、イベントの参加など地域で楽しむことで地域社会とのつながりを広げることが必要と考えました。そこで、宮前区の生活の楽しみ方やまちとの付き合い方を紹介することで、地域への興味を深め、人との交流、地域への参加を促す方策を提案しました。

第 3 期宮前区区民会議（平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月）での調査審議の総括を、「第 3 期宮前区区民会議報告書」としてここにまとめました。区民会議からの提案を契機に、宮前区が「住む」から「暮らす」まちへ変化することを願っています。

平成 24 年 3 月

第 3 期宮前区区民会議委員長 山下 浩

目次

第1章 第3期宮前区区民会議からの提言	1
1 提案の概要	1
2 提案の詳細	3
1) 坂道を活かした地域の活力づくりに関する提案	3
2) コミュニティへの参加を促す雑誌と情報戦略に関する提案	9
第2章 第3期宮前区区民会議の審議経過	17
1 個別テーマの絞込	17
2 全体会と企画部会	19
1) 全体会	19
2) 企画部会	21
3 専門部会の審議状況	22
1) 活力づくり部会	22
2) 地 ^{ちさんちしょう} 参知笑部会	24
第3章 第4期以降に向けて	26
1 地域課題の把握方法	26
2 審議対象課題（優先順位付け、分野、課題の数など）	27
3 全体会の会議運営	28
4 専門部会の会議運営	29
5 区民会議から提案された課題解決策の取組と進行管理	30
6 その他	31
第4章 宮前区区民会議フォーラム開催報告	33
1 開催概要	33
2 第1部 第3期区民会議からの提案の報告	33
3 第2部 宮前区を『住む』から『暮らす』まちへ	34
1) 事例発表	34
2) 意見交換	37
4 その他の催し物	42
5 来場者アンケート	42
資料編	45
1 委員名簿	46
2 活力づくり部会関連資料	47
3 地 ^{ちさんちしょう} 参知笑部会関連資料	53
4 第2期区民会議提案への取組	58
5 第1期区民会議提案への取組	64